

# 卒業論文題目

京都帝國大學文學部哲學科 昭和九年一月提出

## 哲學專攻

- ノヴァーリスに於ける生の理解
- 先驗論哲學の解釋學的構造
- 時間論
- 集合論の所謂「矛盾」に就て
- 循環論法の吟味——
- 實存
- ヘーゲル認識論考
- シェリングに於ける構想力の問題
- 目的論と根本惡
- カントに於ける藝術の問題
- スピノーザの哲學に就いて
- ベルグソンに於ける自由の問題
- プラトン哲學の實踐的要求
- 存在と思惟
- 禪について
- カントに於ける實踐自由の主體

## 西洋哲學史專攻

シェリングの自由論  
時間論  
フイヒテの絶對我

## 印度哲學史專攻

正理學派の比量に於ける因及似因に就いて  
眞言密教に於ける不動明王考  
初期善賢菩薩思想管見

## 支那哲學史專攻

締裕の社會的考察  
支那古代音樂の社會的考察  
論語に現れたる教育思想

## 心理學專攻

方向錯覺の研究  
ユングの類型論  
聽覺領域に於ける「假現」運動現象について  
悲しみの感情に就いての一研究  
時空相待 (Time Heide) に就て  
性別に關する心理學的研究  
恐怖情緒の對象と表出に就て  
ピアジェの兒童研究

岩野俊介  
前原敬司  
瀧澤傳

松尾義海  
三神榮昇  
田中興

入江田靜  
三上孝廉  
大塚繁樹

藤本喜八  
蓮尾千萬人  
久田富治  
中村一男  
多田楠太郎  
遠山長江  
碓井數明  
横尾克巳

倫理學專攻

倫理と法に於ける人格

トーマス・ヒル・グリーンに於ける  
自意識の概念に就いて

フェルスターの性道德に於ける形式と自由に就て

「死」について

ニコライ・ハルトマンに於ける  
「人の自由」に就いて

惡の自由と法則の道德

王陽明に於ける實踐原理の考察

教育學教授法專攻

藝術教育

我國に於ける庶民教育「心學」の本質につきて

エドゥアルト・シュプランガーの教育學の基礎

勞作學校の教育的社會的意義

教育制度確立の根本原理

ハルヘルム・フォン・フンホルトに於ける  
人間學の立場

教育活動の本質

教育に於ける原理と方法の問題  
——特にその實際的聯關に就きて——

テューイに於ける教育改革說

教育に於ける主觀的なるものと客觀的なるもの

長谷川寅雄

中村慶造

小川喜好

小川利邦

豊田全

浦元芳一

山本義明

天川維文

廣瀬正

弘津徹也

菊永重彦

松尾一徳

三浦廣吉

永杉喜輔

中村宏

西平英夫

岡田進次

ナトルプ教育學の理解

後宇多法皇御遺告の一考察

ナトルプの教育思想に於ける教育學の根本問題

「生の形式」に於ける精神について

美學美術史專攻

音樂に於ける形式の問題

近代建築の考察

音樂に於ける美の諸型

美的判斷力批判に於ける藝術の問題

エミール・ウテイツに於ける美的なるものと  
藝術的なるもの

宗敎學專攻

宗教的自覺に就て

パウロに於ける愛

神と私

シュライエルマツヒェルの宗教思想

フアイエルバッハに於ける人間の立場

社會學專攻

競争の研究

社會形態に就いて

農村社會の特殊研究

關秀華

田島繁

寺本彦

上原伸一

原俊兒

入澤博愛

垣内良三

片山博

横山秀全

福田一男

松本信雄

宮本壽

中村明

岡林龜

後藤啓一

細田平吉

桂田則義

マツキヅアに於ける「Community」の分析に就て 喜多村 恭  
 論語の社會學的研究 森 曉  
 マックス・シェラー「知識社會學の諸問題」 森 下 春 一  
 マツキヅアの社會進化に就いて 大 庭 正  
 ジヤナリズム——その社會學的研究—— 岡 本 龍 器  
 マンハイムの知識社會學 奥 田 耕 作

輿論形成の問題  
 ——特に新聞紙との關係より見たる——  
 テュルケムの社會的事實と形態學  
 林 炳 耀  
 田 中 達 哉

# 彙 報

## 西田名譽教授特別講義

西田幾多郎先生の哲學特別講義は一月二十日二十七日の兩日法學部第五教室に於て行はれた。

## 倫理學讀書會

一月十九日(金)午後三時半より第一演習室に於て  
 ニコライ・ハルトマンに於ける「人の自由」 豊 田 全 君

## 美 學 會

一月二十四日(水)午後六時半より樂友會館に於て

藝術の歴史性

## 社會學讀書會

一月二十二日(月)午後六時半より樂友會館に於て  
 シェラーの文化社會學に就いて 森 下 眞 一 君

## 寄 贈 雜 誌

一月號 哲學雜誌、丁酉倫理會講演集、學校教育、宗教研究、  
 基督教研究、社會學徒、理想、勞作勞育研究、信濃教育、奈良縣  
 教育、職業指導、生理學研究、哲學改造、呂。